

## 臨床研究に関する情報公開

福井大学医学部腫瘍病理学講座では、倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 26 年 7 月 福井大学医学部腫瘍病理学

**【研究課題名】** 甲状腺乳頭癌の diffuse sclerosing variant (DSVPC)で認められる腫瘍浸潤リンパ球のホーミング機序の解明とリンパ球サブセットの解析

**【研究期間】** 平成 26 年 7 月 28 日～平成 31 年 3 月 31 日

**【対象者】** 平成 16 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 に福井大学医学部附属病院において甲状腺乳頭癌の手術を受けられた方

**【研究の意義・目的】**

悪性腫瘍の中にはリンパ球浸潤を強く伴う一群があり、そのリンパ球は腫瘍浸潤リンパ球 (TIL) と呼ばれている。TIL は様々な腫瘍の免疫監視・生長抑制に対する働きや予後に影響するため、TIL の腫瘍組織への浸潤機序の解明は腫瘍免疫を精察する上では、非常に重要な関心事である。

一方、甲状腺乳頭癌(papillary carcinoma)は甲状腺を原発とする悪性腫瘍の中では最も頻度が高く、特に日本では諸外国と比較して本腫瘍の占める割合が高い。その中でも diffuse sclerosing variant は 10 歳代に好発する特殊な亜型で、病理組織学的には著しい TIL を伴うことで知られている。ほぼ 100%近くがリンパ節転移を示すものの予後は通常型と比べてあまり悪くはなく、TIL が diffuse sclerosing variant of papillary carcinoma (DSVPC)の進展を制御している可能性が考えられる。

従って、TIL が DSVPC の周辺組織内にホーミングされる機序、そのリンパ球のサブセット、それらを誘導するサイトカインや糖鎖分子を解析し、DSVPC に関連する腫瘍免疫の動態を明らかにしたい。

**【研究の方法】**

DSVPC と病理診断された手術標本を用いて、リンパ球ホーミングに関わる糖鎖に対する抗体 (MECA-79・HECA-452 など) や、リンパ球表面抗原に対する抗体を用いて免疫染色を行い、リンパ球を腫瘍周囲に誘導する糖鎖や、ホーミングされるリンパ球のサブセットの特徴を検討する。

具体的には、リンパ球の DSVPC 組織内へのホーミングに関わる高内皮細静脈の同定やその血管内皮細胞上に発現するホーミングに関わる糖鎖の構造の決定・TIL のサブセットを免疫染色の手技を用いて解析する。これらは腫瘍免疫の動態の解明に重要であるが、DSVPC では十分な知見が得られていない。なお、本研究は純粋な組織学的解析であり、年齢・背景の情報は加味する必要が無い。

【研究組織】 実施責任者：小林基弘 腫瘍病理学・教授

研究分担者：酒井康弘 医学部附属病院病理部・医員

：劉 淑琳 腫瘍病理学・大学院生

【本研究に関する問合せ先】

本研究は、匿名化して取り扱い、個人情報を厳重に保護して行います。なお、本研究や保有する個人情報に関するお問合せ等がございましたら、下記へご連絡ください。

○問合せの窓口

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

福井大学医学部・腫瘍病理学・教授 小林基弘

電話:0776-61-8319 Fax:0776-61-8103

○苦情の窓口

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

福井大学 総務部 松岡キャンパス総務室 学術支援係

電話:0776-61-8614 Fax:0776-61-8153